

第3回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成30年2月27日（火）18時30分～20時30分
- 2 開催場所：庄内町立図書館 二階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、小野寺博、松田透、舘林由美子、仲條一志、信夫幸
- 4 欠席委員：高梨道明
- 5 事務局：社会教育課長、図書館長、係長、主任

1 開 会

○図書館長

今日の第3回図書館協議会は今年度の事業総括と次年度の事業計画についてご審議をいただくことがメインではあるが、図書館建設についても少しずつ進んでいるのでその辺のことも報告させていただきたい。

今年は図書館職員6名のうち4名が新しい職員であり、図書館運営についても苦労の中で過ごして来た1年だと思うが、新年度になり更に職員からも力を発揮していただければ有り難いと思っている。実質職員1名は増えてはいるが、勤務時間が短くなっているため1名増えた分だけの効果がまだ上がっていないのが実際のところである。次年度へ向けて更に体制を強化して行かなければいけないと思っている。

図書館の来館の減少と貸出冊数の減少に歯止めがかからないという点が課題である。新図書館の整備を受け、町民の皆さんから、図書館の存在意義というものを、また、図書館に興味関心を更に持つて貰うための手立てを取らないと図書館建設の理解や支援をいただけないのではないかと危機感を非常に持っている。そういったところにも30年度取り組んでいきたいと思っているので、皆さんからご指導ご助言をいただけると有り難い。

2 あいさつ

○図書館協議会委員長

平成の半分くらいは図書館建設に携わってきた部分があると思う。
新聞で各市町村の図書館のイベントが出るのを見ると工夫点を感じる。
今日は新しい図書館について、更に奇譚のないご意見を聞きたい。

○社会教育課長

今年度は皆様からは図書館整備を中心に協議をいただいた。昨年6月には米沢と東根の視察研修、8月の第1回目の協議会で現在地での改築を柱とする図書館整備基本構想をご承認いただいた。

8月28日の教育委員会定例会で図書館整備構想を付議し決定をいただいた。昨年度は教育委員会の方針が定まらなかったが、いよいよ教育委員会としてまとまって決めていただいた。それを受け10月4日に町長と教育長、図書館長、私、係長で図書館整備についての打ち合わせを行った。その結果、現在地での改築、工期は本庁舎の整備後、財源は延長を見越して過疎債を活用する方向で進めることを確認した。平成30年度は次のステップということで図書館整備基本計画の策定をしたいと考えている。基本的には図書館整備基本構想の肉付けとなるが、非常に厳しい財政状況の中で、町民の理解を得るためには、やはり各方面から意見を訊いて計画を策定しなくてはならないのが前提である。アドバイザーと検討委員会を設置し、更に町民のワークショップ、パブリックコメントも実施をしたいと考えている。そのための予算は平成30年度当初予算に計上している。

整備基本計画の案については、本協議会に諮問させていただくので、十分にご協議をいただき、答申をいただければと思っている。

今後共皆様からは図書館の運営と整備について活発なご協議をいただきますよう、お願いしたい。

3 報告事項

第2回図書館協議会会議録について

《事務局説明》

4 協議事項 座長：委員長

(1) 平成29年度庄内町立図書館・内藤秀因水彩画記念館における事業総括について

(2) 平成30年度庄内町立図書館運営計画(案)について

(3) 平成30年度庄内町立図書館協議会年間計画(案)について

(4) 平成30年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画(案)について

《事務局説明》

(委員) 高校生が宿題をする場所がない。図書館で勉強できるという点をPRしてはどうか。

(事務局) 学習センター的に使う生徒さんが減り残念に思っている。クラッセやスタバなどのカフェはいいである。

(委員) 中学生の利用はどうか。

(事務局) 中学生も来ない。

(委員) 中学生もクラッセにいる。

(事務局) クラッセは喉が渴けばカフェもあるし、ワンコインでパンも買える。

(委員) 「ナイトライブラリー」にとっても興味を持った。怖い話の読み聞かせは、先生達が上手なんじゃないか。男の先生はどうか。私達のような軟弱な者がサラリと読むよりは、先生達の方が強く読んで下さりそう。

(事務局) 男性の声と言うのも確かに臨場感がある。

(委員) 保健センター等、色々な所も本を貸出しているが、老人福祉センター(社会福祉協議会)等もいいのではないか。

(委員) 余目と立川にそれぞれあるが、人が集まるので、待ち時間にながめて貰いたい。年配の人でも絵本等に興味を持つ人がいるのでいいのではないか。

(事務局) 実施に向けてプログラムを組んでみたい。

(委員) 本箱もあるが、あまり利用されないような本が入っているようだ。

(委員) 昨日のニュースで長井市での読み聞かせの記事を見たが、就学前の子供が2か月間読み聞かせをして貰うと6か月分成長するという。読み手もストレスが軽減し、大人にとっても有効である。「読み聞かせはいい」ということを前面に打ち出せないか。

(館長) 長井の取り組みは興味深く、東北大の川島先生をぜひ本町でも呼びたい。庄内町子ども読書活動推進計画第二次が来年度で最終年となる。スタートしてから8年経過し、学校での子ども達の読書量は年々増えて、ピークに達している。これから課題は家庭での読書活動、地域での読書活動と学校を離れても読書に触れられる、家庭でも習慣付いている方向へ働きかけるのが第三次の中心と考えている。保護者から読み聞かせの有効性、効果、大事さを理解して貰わないとなかなか定着しないと思っている。今、小学校のPTAで親子読書がまた復活したと言うのが足がかりとして非常に有り難い。全町的な動きにするには社会教育とか学校教育が一体となって進めなければいけないものだと思っている。教育委員会の読書推進をみんなで共通認識し、そ

それぞれの立場から働きかけるような体制を組む必要がある。第三次でどのような取り組みを重点にしていくかは推進委員会で協議していきたい。そこでどのように全町的な取り組みをやっていくべきか共通認識に立って取り組みがして行けるかが鍵となる。

(委員長) その点に関しては第三次の中でやるということだが、これが完成した時点で「庄内町は整った」と言う認識になると思う。「庄内町はまとまりがある。本の好きな子がたくさんいる町になった。そういう体制が出来た」という点を目標にやってきたが、今日のニュースで「大学生の50%が全然本を読まない」と記事が出ていた。小中学校で読書習慣を付けてきても実践生活の中では本を読まなくなっているというニュースが引っ掛かった。先程委員から『読み聞かせは子どもの成長にいい』と言うことをもっと知らせて欲しいとあったが、14～5年前、私達が読み聞かせを始めた頃は、講演会等も開催され、その点についてみんなが知っているんだなと思っていて、これは常に伝えて行かなくてはならないのだと思った。講師の方をお呼びして講演会をするのも凄くいいことだと思う。

(館長) 結局子どもと関わりのある人達は、各機関で一生懸命指導している。ある程度成果は上がって多くの読書量を達成しているが、家の中でも読書が定着しているかという点、まだそこまですべてではない。完成系はそこだと思う。「読書の町、庄内町」、「本が好きな子がたくさんいて、本の楽しさを伝える町」という理想図を掲げているので、その最終のところをどうやってみんなまで広めて行くかという時に参考としたいのが商工会でやっている「あいさつ運動キャンペーン」である。あのような全町的な運動を興して行き、町民に意識を持って貰うことが最終的に目指しているところである。

(委員) 山形県PTA母親委員会「絵本に出てくる料理を再現した給食」を紹介したい。

自校給食だから可能なのかも知れないが、全部の学校が一斉に出来る町全体の取り組みになるのではないかと。

(委員) 町全体の取組みは大事である。一過性のものや単発的なものは、それぞれみんな活動はやっているが、みんな「町をあげてやろう」と言う気運は無い。『読書』は大事だからどこの学校でも、町をあげてやろう」というものが欲しい。今年度の教育委員会の目標は、図書館で出て来るのは整備計画を作ると言うハード的なものが1点書いてあるだけである。

(事務局) 「家読」についてはふれている。

(委員) 読書に関する部分が必要視されていないと感じる。

(館長) 学校教育、社会教育、健康福祉も含めて読書に対して、みんなに取り組むというキャンペーン的なものが無く、そこが足りないと思う。

(課長) PTAからも協力が必要なので、年1回「PTA懇談会」を実施しており、PTA、学校、教育委員会一同に参加しているのが、今までは「いじめ」や「SNS」等の問題を話題にしていた。今後家読等について館長から話題提起して貰い、意見交換を実施してもいいと思う。

(委員長) 歯医者等で読み聞かせをしている姿をよく見る。

(館長) 子ども読書活動計画活動推進委員会のそれぞれの担当者の話を訊くと、幼稚園ではかなり力を入れてやってくれている。週何回か定期的に貸出をして親子で読むことの大切さもそうだが、「幼稚園だより」や「絵本だより」にも載せて、若いお母さん世代に徐々に浸透し始めていると実感している。どの家庭でも「大切だからしなければならぬ」と言う気持ちになって貰えれば有り難い。

(委員) 例えば読み聞かせをやった効果としてのデータがあれば成果があれば有効的である。

(館長) 川島教授は脳学者であり、学力に効果があるというデータを出している。心もだが、そういうデータがかなり説得力はある。

「朝ごはんを食べると学力が上がる」というデータもあるが、それらの啓発活動をした経験もある。

(委員) 普段読み聞かせをやっているが、子ども達に啓発運動しようと言う気持ちもないし、学力を上げてあげようとか、読解力をつけようとは思わない。「心の栄養だ」と言われるように、子ども達に喜んで貰いたいと

いう気持ちである。自分が読み聞かせしていて、楽しいことの一つは「本を選ぶ楽しさ」である。この本を子ども達に読んであげたいと思う本に巡り合った時の楽しさ。分からなくて10冊くらい借りて行って「家で探してみよう」と10冊を探している時の楽しさ、私はその時間がとても好きだ。親子読書の話について、子ども達が「本を選ぶ楽しさ」を味わえるのではないか。自分が読んで楽しい本もそうだが、「お父さんお母さんにこの本を読んで貰いたい」と色々な本を見て探す訳だが、子ども達はワクワクするのではないか。精神的にも成長する。本を選ぶ過程と、親がそれを受け取った時、子どもの気持ちを汲むことで本を通して親子の関係が良くなることは素敵なことだと思う。理想的である。

(館長) 本に興味を示させる誘いというのも読み聞かせにある。立川中学校で「家族読書」で家族に読んで貰いたい本を選ぶことを実践していて、好評だったと聞いた。

(委員) 近くにいって知らなかった。小学校や幼稚園でもできる。

(委員長) 町ぐるみで今「介護予防」でも取り組みをやっている。図書館で本を借りるということも、ある意味介護予防になるのかと思う。

(5) 庄内町立図書館整備について

《事務局説明》

(委員) 図書館建設中は内藤秀因記念館で貸出をするのか。

(事務局) 小規模になるが貸出返却中心に1年間運営する。快適に憩える空間のセッティングは難しい。

(館長) 第2第3収蔵庫の改修をし、床を上げて平らにし、そこも閲覧室にしようという構想も持っている。今の展示室だけではとても本は並べられない。

(事務局) 収蔵庫は今のままだとコンクリート打ちっぴなしで何にも使えない。本をしまっておくにも環境的に整っていない。黴だらけになってしまう。この機会に第2・3も使える空間にした方がいいと思っている。

(委員) 仮住まいになるが「どうも行き難い」と利用者が離れたら心配である。

(館長) 今緑地になっている方から入っていただき、非常口になっているところに入口を付けて入っていただく考えである。やはり寛ぐスペースが設けられないのが課題である。

(課長) 蔵書の行き先にも問題がある。

(事務局) 何しろ12万冊という蔵書数があるが、工事期間はどこかにストックしておかなければならない。今のところ本庁舎整備と相まって適当なところが見つからない。候補となっているのが立川庁舎の公用車置き場も検討している。

(委員) 借りられる本も並んでいる分しかない。今だったら書庫の本も借りることができるが、そういうこと出来なくなってしまうのか。

(事務局) 即時に対応はできない。何日後、ということになる。

(課長) この場所で仮図書館を運営出来るメリットはある。大江町に教育委員会で視察研修に行ったが、離れた場所に仮図書館を置いたので人が来なかったということもあつたらしい。ご不便掛けるが最低限の対応で仕方ないを考える。

(事務局) 家庭で見ていただくのが中心になる。

(課長) いよいよ来年度から本庁舎工事がスタートするため騒音が発生する。南側の町道が拡幅になり1メートル図書館の敷地が狭くなることもある。

(委員長) 今の入口ギリギリまで拡幅するのか。

(課長) 新しい図書館の入口は北又は西にするか検討の必要がある。今の駐車場が使用できない可能性もある。

(委員長) ワークショップはどうするのか。

(事務局) 満尾先生から住民向けに「図書館整備についてや図書館の存在意義」といった気運が醸成されるよ

うな、プラス志向になるようなお話を是非していただきたい。最新の全国的な図書館の情勢や町づくりにおける図書館の意義といったお話していただければと思っている。

(課長) 基本的な課題と今後の考え方を示し、参加者と意見交換したいと考えている。

(館長) 2月の図書館協議会で了承を得た後にパブコメをするのか。

(課長) 最後は教育委員会定例会で付議し、決定を出す。

(事務局) ※ 図書館と記念館の新しいパンフレットの紹介。

5 その他

※特になし

6 閉会